

年長爲太子

〔皇年代略記反正〕仁德四十年降誕、履中二年正月己酉立太子、五十

〔皇胤紹運錄〕武烈天皇 允恭三十九年誕生、仁賢七年正月立太子、四十

〔皇胤紹運錄〕安閑天皇 雄略十年誕生、

〔日本書紀十七〕七年十二月戊子、詔曰、略中懿哉麻呂古開安示朕心於八方、盛哉勾大兄開安光吾風

於萬國略中宜處春宮、助朕施仁、翼吾補闕、

○按ズルニ、安閑天皇ハ、雄略天皇十年ノ降誕ナレバ、繼體天皇七年ハ、御年四十八歳ナリ、皇胤

紹運錄、皇年代略記等ニ、安閑天皇ノ立太子ヲ繼體天皇ノ二十年トセルハ誤ナリ、

〔皇年代略記天武〕推古卅一年癸未降誕、天智七年二月戊寅爲皇太弟、

○按ズルニ、天武天皇ハ、推古天皇三十一年ノ降誕ナレバ、天智天皇七年ハ、御年四十六歳ナリ、

〔皇胤紹運錄〕光仁天皇 和銅二己酉誕生略中神護景雲四、八、一、爲皇太子六十

〔神皇正統記光仁〕稱徳かくれまし、かば、大臣以下皇胤の中をえらび申けるに、おのゝ異議ありしかど、參議百川と云し人、此天皇仁光に心ざし奉て、はかりごとをめぐらして定申てき略中

先皇太子にたち則受禪御年十二

〔皇年代略記桓武〕天平九年丁丑降誕略中實龜四年正月十四日庚寅立太子卅七

〔台記〕久壽二年九月二十三日丁卯、今上第一皇子略中先被下親王宣旨、次立爲太子略中今朝太子

渡御鳥羽南殿法皇後白河美福節會了、關白已下參被殿云云、太子御洛外未聞先例、上下傾奇、

〔日本書紀十五〕白髮天皇仁賢二年四月、遂立億計天皇仁賢爲皇太子、五年白髮天皇崩、天皇仁賢以

天下讓弘計天皇顯爲皇太子如故、

〔日本書紀二十三〕十三年十月丁酉、天皇崩于百濟宮、丙午、殯於宮北、是謂百濟大殯、是時東宮開別

皇子智年十六而諫之、

爲親王即日爲太子  
數朝爲太子